

令和8年度 スッキーニ 技術情報 No. 1

大船渡農業改良普及センター
電話：0192-27-9918 FAX：0192-27-9936



- ① 育苗はトンネル保温などで温度を確保し、適切に管理しましょう。
- ② 土壌分析結果をもとに施肥設計を行いましょう。
- ③ 圃場準備は定植の10日以上前までに行い、地温を確保しましょう。
- ④ 定植後は活着まで株元かん水を行い、強風対策も行いましょう。

1 定植までのスケジュールについて：4月中旬播種で6月収穫開始

作業時期	作業内容	★ポイント★
4月中旬～下旬	播種	※畑では施肥・耕起
	育苗管理	温度管理
4月下旬～5月上旬	畝立て	地温の確保、事前の排水対策
5月上旬～中旬	定植	適期苗の定植

※畑選びは、風当りの強い場所を避けましょう

2 育苗管理について

(1) 播種

- 春作では低温障害回避のため、6～9cmポリポットで大苗に仕立てます。
- ポットに培土を詰め、深さ1cmを目安に1粒ずつ播種し、覆土後にかん水します。深すぎると出芽遅れ、浅すぎると苗が倒れて生育不良となるので注意しましょう。地温25～28℃で管理します。

【推奨品種】グリーンポート2号、スプリント、ブラックボー

【使用培土（例）】果菜子床専用培土

(2) 育苗

- 発芽揃い後は、日中の気温20～25℃、最低気温15℃を目安に管理します。特に、本葉展開後は10℃以下にならないようにトンネルで保温しましょう。
- かん水は午前中を基本とし、夕方に表面が乾く程度とします。
- 育苗期間は25日程度で、本葉1.5葉が定植の目安です。老化苗は根張りが悪く収量が減少しますので、圃場準備は遅れないようにしましょう。

※セルトレイ育苗では、播種後約2週間で適期苗になります。

【育苗期間中の温度管理】

生育段階	温度管理
播種～発芽	地温 25～28℃
発芽後	日中気温 20～25℃、最低気温 15℃以上 地温 20℃程度



トンネルで保温

定植適期苗（本葉 1.5 枚）

3 施肥設計について

施肥量は、土壌診断の結果を参考に pH6.5 前後に矯正し、適正施肥を行いましょう。

土壌診断を受けていない方は、下記を参考にしてください。

○標準施肥

	成分 (kg/10a)		
	窒素	リン酸	カリ
基肥	12	19	12
追肥	6	1.2	6
合計	18	20	18

○減肥する際の施肥量

	成分 (kg/10a)		
	窒素	リン酸	カリ
基肥	12	-	-
追肥	6	-	-
合計	18	-	-

①標準施肥：窒素、リン酸、カリを標準通り施肥

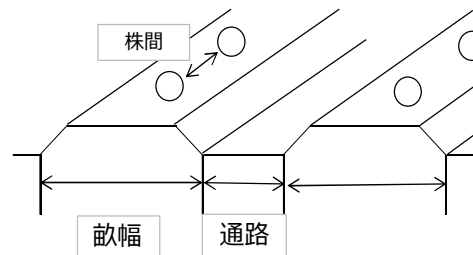
銘柄	施用量 (kg/10a)	成分値 (%)			施肥成分量 (kg/10a)			備考
		窒素	リン酸	カリ	窒素	リン酸	カリ	
<土壌改良資材>								
牛ふんたい肥	2000							
粒状てんろタンカル	100							土壌診断を参照
<基肥>								
そ菜有機オール12号	100	12	12	12	12	12	12	
重過石	20		34			6.8		
<追肥>								
野菜追肥S535号	40	15	3	15	6	1.2	6	
合計					18	20	18	

畦内施肥にすると施肥量を 30% 程度削減できます。
環境負荷軽減、コスト削減のためにもおすすめです。

4 定植準備について

- (1) **定植前に圃場の排水対策や強風対策**も確実に実施しましょう。
 - ・水田転作で排水不良の場合は、排水溝の設置や 20cm 程度の高畦にするなど、対策しておきましょう。
 - ・風当たりが強い圃場への作付けは避け、状況に応じて防風ネットの設置を検討しましょう。
- (2) マルチ張りは、降雨後など**土壌水分が十分ある状態**で実施しましょう。→土壌水分不足は、活着不良の原因になります。
- (3) 定植 10 日以上前までにはマルチを張りましょう。
→ **定植時の地温を確保する**ことが重要です。

畝設計の目安	
畝幅 (cm)	80
通路 (cm)	100※
株間 (cm)	80



※作業性を考慮して通路幅を広げている事例もあります。

5 定植について

- (1) **本葉 1.5 枚の若苗**（セルトレイ育苗では播種後約 2 週間程度）を植えるのがポイントです。老化苗は根張りが悪く、収量の減少につながるため、圃場準備が遅れないようにしましょう。
- (2) 活着まで**株元かん水**を行いましょう。
- (3) 低温時の定植の際は、トンネル等の被覆を行い、スムーズな活着を促しましょう。



不織布による保温事例



強風対策(割箸で固定)

6 病害虫防除について

「令和8年度 スッキーニ（露地・春まき）防除暦」に沿って薬剤散布を行いましょう。

虫害は初発確認後早めに対処、病害は発生前の予防が基本です！

(1) アブラムシ類

若葉の裏側、蕾、花に発生し、吸汁加害します。**ウイルス病は、アブラムシ類によって媒介**され、生長点付近の若葉が黄色と緑の鮮やかなモザイク症状を呈します。

生育初期から防除を実施しましょう。また、ウイルス病の発病株は、直ちに除去・圃場外で処分して、他株への感染拡大を防ぎましょう。



葉裏に寄生したアブラムシ



ウイルス病の罹病株

(2) 軟腐細菌病（腐敗）

主茎や果実が軟化腐敗し、腐敗した部分に白い菌泥が付着して悪臭を放ちます。

病原細菌は、**土壌中に存在し、高温多湿条件で増殖**します。雨によってほ場に広がり、傷口や害虫の食害痕から植物体に侵入し、被害が発生します。

梅雨前の定期的な防除の徹底と圃場排水・草勢維持に努めましょう。また、**罹病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分**しましょう。



軟腐細菌病により腐敗した罹病株

(3) うどんこ病、べと病、ウリハムシ 等

発生状況に応じて、技術情報で防除情報をお繋ぎします。

★いわてアグリベンチャーネット URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>
岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★2月26日～5月31日は岩手県山火事防止運動月間
野焼きによる山火事に注意しましょう。

令和8年山火事防止運動統一標語 「山火事を 起こすも防ぐも 私たち」